D－73－管調資－No.25

各国事情のしおり

―― アルジェリア編 ――

JICA
401
19
EX
LIBRARY

1973・2

海外技術協力事業団

国際協力事業団
受入月日 '84. 3. 28
登録No. 02550
401
19
EX

はしがき

本小冊子は、技術協力のために海外に派遣される専門家のオリエンテーション用資料として、アルジェリア国に派遣されている養蚕専門家倉田和平氏からの調査報告をもとに作成したものである。

本小冊子は、専門家の日常生活に密着した任国事情、特に衣食住、気候、教育、公共施設、治安、対日感情等を重点に作成した。

本小冊子の各項目については、今後も適時修正をおこなつてゆくが、本小冊子が同国に赴任される専門家の何らかの参考になれば幸である。

昭和48年2月

海外技術協力事業団

理事長　田付景一

JICA LIBRARY
1061488[1]

目　　次

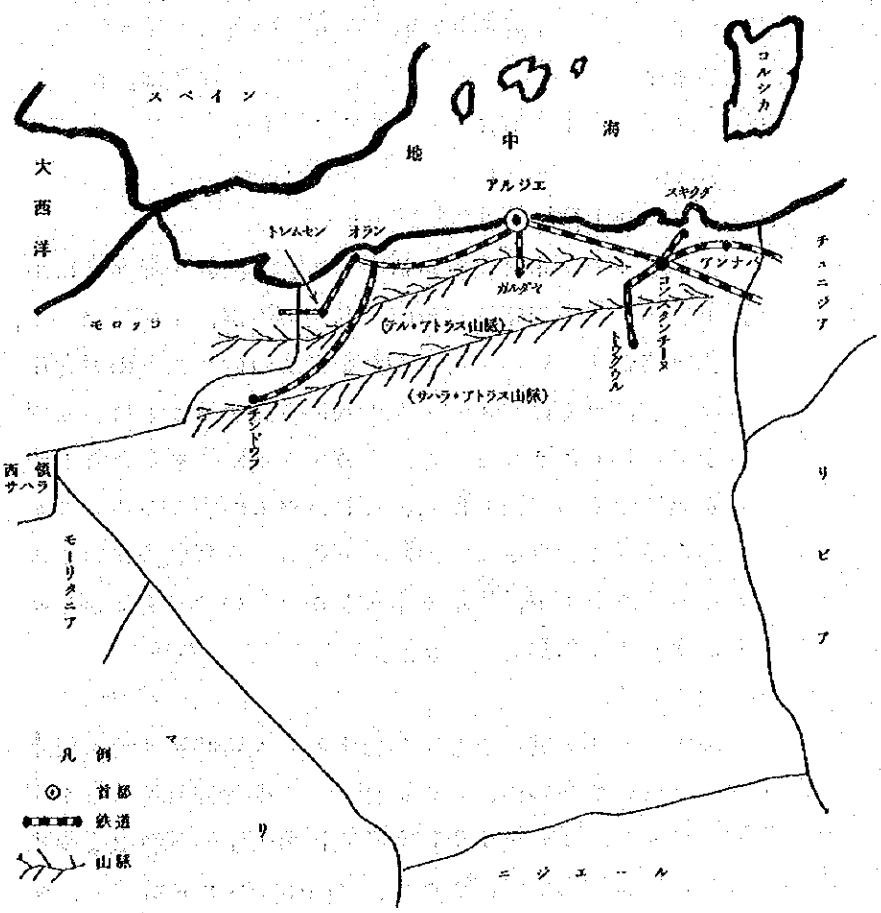
I　任国事情…… 2

1. 住宅（住宅事情、家賃、ホテル、什器・備品）…… 2
2. 食品（食料事情、価格、外食、その他）…… 5
3. 衣類および日用品（衣料事情、日用品）…… 9
4. 使用人…… 11
5. 医療（医療事情、医薬品、疾病の種類、健康管理）…… 12
6. 子弟の教育機関（教育制度、教育機関、授業料、通学方法）…… 14
7. 娯楽施設（保養地等、余暇、日本人クラブ）…… 15
8. 電力…… 16
9. 交通（交通事情、タクシー・ハイヤー、レンタカー、自動車購入、運転免許、ガソリン代）…… 16
10. 為替（相場、対日送金、滞在費受取方法）…… 19
11. 出入国管理（税関検査、ビザの更新）…… 20
12. 便宜供与（種類、カウンター・パート等、免税特権）…… 22
13. 通信・運輸（郵便事情、運送）…… 24
14. 言語（公用語等の普及度、現地語学習、語学学習の施設）…… 26
15. 気候…… 26
16. 治安（一般情勢、夜間外出、緊急連絡）…… 27
17. その他（現地人気質、新聞・雑誌等、風俗・習慣、理髪・美容院・クリーニング店等、買物、今後赴任される専門家に対するアドバイス）…… 28

II　同国に対する我国の技術協力実績…… 35

III　大使館等連絡先…… 36

アルジエリア民主人民共和国略図



- 面　　積　238万1,741㎢。
- 人　　口　1,534万2,000人（1970年）、（アラブ人60％、ベルベル人40％）。
- 首　　都　アルジェ（Alger）。
- 通貨単位　1US$ドル＝4.64ディナール。
- 宗　　教　総人口の圧倒的多数が回教徒。
- 教　　育　義務教育は5年制、児童の75％が就学。
- 公用語　アラビア語。一般にフランス語が通ずる。
- 住　　民　アラブ族とベルベル族。

農業は、鉱業とともにアルジェリア経済の中心をなしている。労働人口の4分の3は農業従事者である。主な生産物は、小麦、ぶどう、柑橘類野菜類、牧草等。広大な土地を相手に牧畜も盛んで主として羊を飼育している。1965年サハラ石油が発見されて以来、新興石油生産国となった。

I 任国事情

1. 住　宅

(イ) 住宅事情

① エイジエントの有無

有る。

② 入手の難易度

主都アルジエ市は住宅が払底しており、入手は非常に困難である。地方都市は比較的容易であるが、主都に比べて、近代建築が少ないので適当な家を探すのはやはり困難を伴う。一般に家主はアルジエリア人に賃貸することは、家内外を著るしく汚されること、家賃を支払わないことなど問題が頻発するので、外国人に貸したがるが、この場合でも有利な条件で貸りる事は困難。（最近、家賃収入に対する税制の改革があり、大巾な増税となつたので借主側からみれば増々入手困難となつた。）

③ 賃借方法

通常1カ年を基準として契約する。入居時には前家賃を支払う場合が多いが、この場合3～6カ月分（時には1年分）である。また日本でいう敷金に相当する保償金を要求される場合があるが、これは、2000～5000DA位で、家の〝きれいさ〟等にもよる。解約時には、何かとインネンをつけて、返却しない態度に出る傾向があるので、入居時に特に留意する必要がある。

風呂はシヤワーが一般的で、バスは比較的少ない。

(ロ) 家　賃

アルジエー市は他の都市（コンスタンチーヌ、オラン等）

に比べて、５０％程度の加算を考慮する必要がある。以下はアルジェー市の一般的な家賃である。

① 独身者

アパート： ベッド・ルーム１，サロン１，台所，風呂付

（５００～１０００ＤＡ）

② 家族２人

アパート： ベッド・ルーム２，サロン１，台所，風呂付

（１５００～２０００ＤＡ）

③ 家族４人

独立家屋： ベッド・ルーム３，サロン２，(大小)，台所，風呂付

（２５００～３０００ＤＡ）

上記は、いずれも家具なしか、あっても利用できないものが多い。

ハ ホテル

① 短期滞在のホテル

外国人が宿泊できる程度のホテルは、殆んど国有化されているので、サービスは期待できない上に、水、湯がストップする。リザーブしておいたのに室がない。Ｖ．Ｐ．Ｉ来訪時には、Ｖ．Ｐ．Ｉが優先されるため、一般宿泊者は部屋の明け渡しを要求される等々、西欧諸国では考えられない事態が頻発するので、換言すれば、〃泊らせて頂く〃という事を理解しておく必要がある。

1US$＝4.64DA（ディナール）

区分		Hotel ALETTI	Hotel ALBERT 1er
宿泊料金	Single	70～100 DA	40～60 DA
	Double	100～150 DA	70～100 DA
食事	朝	10～ 12 〃	5～ 8 DA
	昼，夜	20～ 30 〃（メニュー）	なし

② 長期滞在のホテル又はマンション

ホテル以外に、マンション型式のものはない。比較的長期滞在の独身者のためには、ステュジオ型式のアパート（1部屋とトイレ、台所付程度）も考えられるが、家賃は月額300DA程度である。（契約等はアパートに同じ）

(二) 什器、備品

① 携行を必要とする食器類等

一般に長期滞在する場合は、相当の家具が必要となろうが、当地では、家具が備えつけてない場合が多く、また、あつても生活様式の差から利用しにくいので、大部分は購入しなければならない。ただし、現在当国は、外国製品の輸入は極度に制限しているため、市内の店舗を探しても、専門家として生活するための最少限の家具を揃えることも難しい。従つて、当国内で購入することは予め考えず、一切のものを日本から持参する方がむしろ最善と云える。

ちなみに、電気製品について、アルジェー市内の一流店舗で、アイロン（100～150DA）は品切れ、テレビジョン（2000～3000DA）、冷蔵庫（800～1500DA）、ガスレンジ（800～1500DA）各1台づゝある

のみと云う有様であつた。（勿論、日本製品は全くない。）

2. 食　品

(イ) 食料事情

① 一般的食料事情

食料は比較的豊富といえよう。特に野菜、果物は日本に比べて変化があり、より季節感を感じさせられる点（いわゆる速成、抑制栽培がないこと）好ましいと云える。

ただし、流通機構の不備によるものと思うが、突然特定の商品が市場から姿を消すことがある。これは、ジャガイモ、玉ネギなどが多く、その時期は季節の変り目、ラマダン（回教徒の断食期）の前後などにしばしばみられる。サツマイモ、大根等も小型であるが入手できる。又秋には、松茸等も市場に姿を見せる。ただし、ゴボー、里いも、蓮、白菜、ホーレン草、大小豆、生麦、等はない。

鮮魚は比較的多い。エビ、イセエビ、カツオ、タイ、イカ、サバ、アジ、イワシ、ヒラメ、マグロ等々があるが、野菜、肉類に比べれば、高価という印象である。

当国は回教国であるため、豚肉は一切食べられないので、豚肉は大都市　又は観光地の一部の肉屋でわずかに販売しているのみである。羊肉が一般的で、牛、鶏、もあるが、牛肉は特に硬く不味である。

パンもいわゆる食パンは少なく、バステーク等のフランスパンが大部分である。又地方都市では自家パンを製造しているため、夏季のコンヂエーの時期になると、市場からパンが姿を消すこともある。

② 日本食品の入手状況

日本食品は一切販売されていない。一般的には日本から取り寄せるか、パリ、ロンドン、ドイツ（ハンブルグ、ジュセンドルフ等）ベイルートなどから入手する。白米は当国産のものもあるが、最近、中国米が出廻っている。米はいづれも美味とは云えない。

③ 水、燃料等

水は全般にカルシューム分が多く、直接飲料に用いることは避けた方が安全である。水道水は煮沸して使用する。又、"Saida" （サイダー）と云うビン詰の水を購入して使用する。

燃料は調理用、浴用いずれも都市ガス（2～3の大都市のみ）又は、プロパンガス（一般的である。）電気等を利用している。注意を要するのは、都市ガスは日本程匂を付けてないので、ガス洩れがあつても気付かない場合があることである。当国在留邦人でもガス中毒にかかつた人が数人いる由である。

また、夏期には、水道断水が屢々あり、長い時は2～2カ月に及ぶ。

ナベ類、包丁類は一応入手できるが、品質仕上げ共に悪い。包丁類、マナイタ、炊飯器、ハシ、シャモジ、ヨージ等は持参した方がよい。

調味料は日本で使用されているものは一切販売されていないので持参するか、他の国から取り寄せることになる。（赴任時、持参が望ましい。）

④ 日本食レストランの有無。

皆無。

中国レストランに近いヴエトナム料理店がアルジエー市に3軒、オラン市に1軒あるがいずれも不味。

(ロ) 価　格

野菜、鮮魚類は季節変動が大きいが、物価の値上り等は食品類に限つては少ない。現地では、品質の良、不良にかかわらず、1kgいくらという売り方が多い。又外国人とみると店の奥や売り台の下から比較的良質のものを高値で売りつけようとする傾向がある。外国人にとつては、品質、キレイさからもその方がよい場合がある。現地人は食品に対しては割合無神経で、例えばパンをむき出しのまゝ自動車の中にほうり込んだり、くさつた果物と新鮮な果物を一諸にして売つたりしている。露店市場は、アルジエ市では日曜を除き毎日正午頃まで、トレムセン市では祝祭日を除き毎日正午頃まで開かれている。個人店舗は、日曜日又は月曜日が休店で夜間7～8時頃まで営業している。夏季のコンジエ時期にも食糧品店は開いている場合が多い。

以下の価格は大体の見当であり、露店市場と店舗では多少の差もあり、又地方都市の場合は農家から直接買う事もできる。

1US$＝4.64DA（デイナール

品　名	単　位	価　格 DA	備　考
米	1袋（500g）	1～1.70	
（パン）			
食パン（トースト用）	1包	2.00	地方都市にはない。
パステース	1本	0.40	
（肉）			
牛ブイレ（ステーキ用）	1kg	20～30	
羊　肉	1kg	10～15	
鶏　肉	1kg	8～12	

1US$＝4.64DA（デイナール）

品　名	単　位	価　格	備　考
卵	1コ	0.30～0.40 DA	
（野さい）			
ナ　ス	1 kg	2.00～5.00	一般に大きく、季節変動が多い。価格も大巾に上・下する。
キューリ	〃	2.00～10.00	
インゲン	〃	0.50～4.00	
トマト	〃	1.00～5.00	
キャベツ	〃	1.00～2.00	
ジャガイモ	〃	0.70～2.00	市場になくなることがある。
玉ねぎ	〃	1.50～2.00	
人　参	〃	0.60～1.50	
大　根	〃	1.00～2.00	
（果　物）			
オレンジ	1 kg	0.80～2.00	
レモン	〃	0.80～2.50	
メロン	〃	4.50～6.00	
イチゴ	〃	4.00～8.00	
サクランボ	〃	4.00～8.00	
モモ	〃	2.00～5.00	小型である。
ブドウ	〃	1.50～4.00	
ビワ	〃	2.00～4.00	
スイカ	〃	2.00～10.00	
			上記のほか、栗、ザクロ、サボテンの実、デーツ、西洋なし、アプリコ等豊富である。
（魚）			
スズキ	1 kg	12.00～18.00	
エビ	〃	8.00～15.00	魚類は大きさにかつても価格が異なる。
イセエビ	〃	25.00～35.00	
タイ	〃	5.00～15.00	
カツオ	〃	10.00～13.00	
イカ（カラマール）	〃	8.00～15.00	
アジ	〃	1.50～ 3.00	

1US$＝4.64DA（ディナール）

品　名	単　位	価　格	備　考
イワシ	1kg	0.50～2.00DA	
サバ	〃	2.00～5.00	
マグロ	〃	12.00～18.00	
（その他）			
牛乳	1本（1ℓ）	0.85	
バター	1kg	10.00	
砂糖	〃	15.00	
塩	〃	4.00	
コーヒー	500g	5.00	
ビール	1本（小ビン）	1.30～1.50	
ブドー酒	〃（中ビン）	4.50	
			ウイスキーは全部輸入品で高価。ジョニー赤で90～95DA。
煙草	1箱	1.00～1.95	
外国品（煙草）	〃	4.50	

(ハ) 外　食

ベトナム料理店（10～30DA）、フランス料理店（10～30DA）を多く利用する。食事に注文のない人は、アラブ料理のクスクスもよい。

地方都市ではフランス料理店（10～20DA）、現地人食堂（5～15DA）を利用する以外外食はできない。

(ニ) その他携行すべき調味料等は前述のとおり、全部日本から携行しなければ、現地購入は不可能である。

3. 衣類、日用品

(イ) 衣料事情

① 一般的衣料事情

一通りはあるが、大部分が人絹製品である。ヨーロッパでも高価と云われているフランスに比べても3～4割は高い。麻、羊毛、絹等天然繊維品は非常に高価であるうえ、品物が少ない。日本人の感覚、品質からみて買うものは皆無である。

② 必要とする衣類

当国は、大まかに北部地中海沿岸地帯、中部高原地帯、南部サハラ砂漠に大別されるが、南部サハラを除いては、日本の四季に合ったもので差支えない。家屋構造が、タイル、大理石であり、底冷えがひどいので、気軽にはおれるセーターなどは、是非共必要である。

礼服は国家制度上から公式の場でも用いないので、男性では普段着（ダーク・スーツ）で充分間に合う。女性（当国女性が公式の場に出ることは非常にまれである。）については普段着（絹物があれば最上である。）でよい。また、和服は持参した方が便利である。

③ 携行すべきもの

滞在期間中のものは、全て携行することをすすめる。生地は高く、仕立ては下手で、当地で満足する衣類は得られない。下着類についても同様である。

(ロ) 日用品

外国製品は殆んどない。化粧品、ポマード、ティシュ・ペーパー、チリ紙などは是非持参した方がよい。（トイレットペーパー、洗濯用洗剤などが市場から姿を消すことがある。）

4. 使用人

① 職業紹介所

有。余り利用しない。

② 具体的雇用方法

通常雇用する場合は、知人、友人を通じて行なう。この方が問題が少なくてすむ場合が多い。（女中としての能力の有無、コソ泥を働かないか、帰国時における解雇問題等。）

雇用に当っては、契約を具体的に定めることは必須条件である。年間の有給休暇（原則として1カ月、勤務時間、仕事の種類、内容、契約期間、給与等について契約書を交換する。

短期間の雇用であるからという日本人的考えで契約をはっきりさせなかったため、裁判沙汰になったケースもあると聞いている。

③ 通常の月額給与

コック	：	雇用不可能
住込女中	：	手取300～500DA
通い女中	：	1日8時間労働で10～20DA
運転手	：	手取500～800DA
子　守	：	1時間5DA程度
洗濯女	：	女中に兼任させることになろう。

この他か、雇用主は社会保障（通称CASORAL）掛金を負担することが義務づけられる。

④ 最底必要とする使用人

上記のような事情からみて、女中1人位が適当であろう。

⑤ 雇用、解雇に際し特に注意すべき事項

当国は制度上からみてもわかるとおり、労働者が優遇保護

されているので、使用人雇用に当っては、念を入れる必要がある。解雇は1カ月前に解雇予告を要する。

一般に人件費は高く、その割には働かない者が多い上に、コソ泥が多いので注意を要する。

5. 医　　療

(イ) 医療事情

一般的にいって医療事情は最底と云えよう。当国全体で医者数1,200人（うち外国人800人）で、人口1万当り1人の割合と云われる。従って、正規のルートで診療を受けようとする場合、医者のアポイントメント取付に1カ年も経過してしまうことになるので、友人、知人のあらゆるコネを求めて医者を確保することが先決となる。勿論、医者にかからぬように日本出発前に全身をチエックし、悪い所は完治させておく事が大切である。不幸にして医者にかかる事態となった時は、大使館と相談の上早期のうちに国外において治療に専念することを考慮すべきであり、憂慮すべき状態にならぬよう日常生活に常に配慮が肝要である。

① 医療施設

各都市には中央病院があり、急患には一応の手当は施す。大病院よりは、独立前に個人病院であった所が、比較的こじんまりして親切である場合が多いが、病人が多いため（社会制度上、一寸したつかれでの休暇にも医者の診断書が必要であり、又、一寸したことにも医者にかかる人が多い。）受診には相当のコネが必要となる。

② 日本人医師の有無

無し。

ベイルートに大使館の医務官が駐在しているので、年2～3回の巡回の際、大使館に頼んで診察してもらうことができる。

③ 出産の定全性

日本人でも当地で出産を経験している人が何人かいるが、フランス等先進国で出産させる方がより安心である。先進国からの外国人は通常のケースとして、当国以外において出産させている。

(ロ) 医薬品

原則として医薬品は医師の処方箋を要するので購入は難しく、また、処方箋を貰っても該当薬品が品切れのため購入できない場合もあることが多い。

このため、日常使用する常備薬等は持参することが望ましい。特に歯痛の場合の痛み止めは必要である。（歯医者は少なく、技術的設備面に問題があるので、日本で完治させておく必要がある。）

(ハ) 疾病の種類

① 風土病的なもの

当地の外国人医師の言によれば、結核、チブス、トラホーム、性病等は特に多いとのことで、風土的には冬が雨期、夏が乾期である上、地中海沿岸を除いては大陸性気候である関係上、風邪、気管支炎、下痢、神経痛、リューマチ等が多い。又、水および食物の関係からと思われるが、急、慢性肝炎が多い。

② 日本出発前に特に予防注射しておくもの

種痘、チブス、コレラ

（就学児童がいる場合は、入学、転校の際に予防注射が必要となるので、イエローカードのほか、母子手帳その他の予防接種の証明できるものを持参した方がよい。）

(ニ) 健康管理上の注意

当国人は一般に不潔、非衛生で衛生観念に乏しい者が多いので、日常生活における食事には特に注意する。腸チブス等も多いと云う噂であり、発病しても治療までに手が廻らないため放置される例があるとの噂も聞かれる。

当地在住の外国人は、野菜等を洗う場合でも oaudo javl（漂白用稀塩酸液）を使用している家庭が多い。

ハエ、ゴキブリ、ネズミ等が多い。

水道水はそのままでは飲まないこと。

日中は暑くても夕方から極端に低温となるので、上衣、セーター等は常に手元においておくこと。

6. 子弟の教育機関

(イ) 教育制度の概要と教育機関

フランスからの独立後国をあげて、文盲率の低減とアラブ化に邁進している関係上、制度的にも流動的であると同時に、学校教育はアラブ語を主体として使用するので、日本人子弟が、アラブ語を習得した上に教育内容を理解することは、非常に困難が伴う。

小学校　5年制　（現地人の75%が就学しているが、試験により留年もある。3年生まではアラブ語教育、4年生からフランス語が始まる。）

中学校　6年制　（6学年、5学年、4, 3, 2, 1と呼称が逆

になり、3学年までは一般教育で2学年、1学年は試験によりそれぞれ専門学科に分かれる。）

大　学　4年制　農学部は3年制、医学部は5年制、他は4年制

(ロ) 通常専門家の子弟が利用している教育機関の実例

なし。

アルジェー市には、英語小学校があるが、これも入学には相当の語学力を必要とする。

学習塾、語学教室等も大都市にはある。

(ハ) 授業料

国立学校は全て無料。学習塾、語学教室等は10～20DA程度。

(ニ) 通学方法

家庭で送迎する。スクールバス等はほとんどない。

7. 娯楽施設

(イ) 保養地、ゴルフ、ボーリング、映画等、保養地はせいぜい、海水浴場位で、レジャーを目的とした施設は皆無である。

温泉もわずかに数カ所ある。

ゴルフ場は、アルジェー市に一カ所あるのみ。

ボーリング場は皆無。スキー場もあるが、利用者は少ない。（設備、交通等が不備。）

映画は、当国最大の娯楽施設である。（但し、フイルムは古く、設備も悪い。）（3～6DA）

(ロ) 通常の余暇の過し方

小旅行、水泳、釣、知人の訪問。

(ｲ) 日本人クラブ

なし。

8. 電　　力

一般家庭用　　１１０Ｖ、２２０Ｖ　５０サイクル。

（５０サイクルと云われているが、当国では Cycle と云う言葉自体がよく判らない人が多い。モーター等は回転数で呼んでいる。ホテル等大きな建物毎に１１０Ｖ又は２２０Ｖの異なったＶの電気がついているので特に注意が必要である。

動　力　用　２２０Ｖ、３８０Ｖ、（３相）

9. 交　　通

(イ) 交通事情

国内航空：　国内大都市間を結んでおり、特に南部サハラへは便利である。

鉄　　道：　主としてモロッコとチュニジアを結ぶ海岸に沿って東西に一本ある。中部高原地帯までは支線がある。南部サハラには通じていない。

バ　　ス：　市内線および長距離バスがある。最も利用されている。

② 道路事情

主要幹線は勿論支線の大部分が補装されており、日本の現状より優っている。まれに、ガソリン・スタンドにガソリンがなくなることがあるので要注意。南部サハラ砂漠へは単独旅行は危険であり、充分な水、食糧、ガソ

リンを持参すること。又道路は、歩行者が勝手に横断しているので、市内運転には特に配慮が必要。

③ 特に注意すべき交通法規

右側通行

正服の軍人、警察官の乗車した車は常に最優先となる。無謀運転するものが多い。

④ 交通事故の取扱い

自己の非はあくまで認めないで、警官立合いで処理することが望ましい。少なくとも、第三者の証人を必ず確保すること。（現地人は責任を他に押しつけることに馴れている。）

⑤ 事故補償

保険取扱機関は公社（Societe Algerienne D'Assurans）のみ。義務と任意との２種類がある。保険金は車種によつて差がある。（同乗車保険を含めて、プジョー３０４型、フランス製、５人乗で、年間2,332DAである。この場合補償額は最高１０万ＤＡ、同乗車２万ＤＡ。）

(ロ) タクシー、ハイヤーの利用、料金

ハイヤーに相当するものはなく、大部分がタクシーである。原則として、タクシー乗場から乗る。（流しはない。又電話で呼ぶ事は出来ない。）

料金は市内２Kmまでは３ＤＡ、メーターは余りあてにならないが、料金は比較的良心的。

地方都市の場合、乗合タクシーが多い。距離によつて、１人あたりいくらと計算する。メーターは使用しない。

(ハ) レンターカー

アルジエ市の場合では、車種としてフイアト125、ルノー16位しかなく料金が非常に高いので、一部の高給外国サラリーマンしか利用できない。

地方都市にはない。

(二) 自動車購入

① 購入方法

当国産車はないので、輸入か、国内の中古車を購入する以外方法はない。当国は極度に車の輸入制限をしている上、1972年から輸入税が270%付加されることになつた由で、増々入手困難となつた。更に、輸入は公国が一手に取扱つており、緊急輸入を申請しても、実際に輸入されるまでは1年以上待たされるので、事実上輸入は不可能である。このため、国中の中古車価格も暴騰しつゝある。又、車は輸入してもパーツは輸入しないので故障の場合最低1週間から時には数週間、ガレージに入つたままとなる。

日本車は皆無。融資はない。

融資はない。

② 免税輸入特権について

原則として免税はない。但し、専門家の場合特に配慮されていると聞いている。

③ 帰国時の売却方法

免税で入手した車を売却した場合、輸入した時点に遡及して、輸入税が課せられる。売却にあたつて、税金を誰が負担するかが問題となろう。専門家同志なら問題はないが現地人に売る場合、投売りにならざるを得ない。

(ホ) 運転免許

① 国際免許の有効性

有効。（1年更新）

日本の免許証は大使館で有効免許証のほん訳証明を作成してもらい、各所在県庁（Wilaya）へ申請すると当国の免許証を交付してくれる。

② 免許取得の方法

通常は、自動車学校（Auto Ecale）＝個人経営的なものが多い＝で練習し、運転技術について学校が保証し得た時点で受験する。（警察が所管）比較的きびしい。

(ハ) ガソリン代

スーパー	1ℓ	0.98DA
ノーマル	〃	0.90DA

10. 為　替

(イ) 相　場

公　定：　1US$　＝　4.64DA（デイナール）

実　勢：　1US$　＝　4.10DA（47年8月17日現在）

(ロ) 対日送金

外貨で日本に送金は不可能

(ハ) 滞在費等の受取方法

当国は為替管理が特にきびしく、日本から送金された滞在費等は全てDAに自動的に交換されるため、これを再び外貨に交換することは大変困難である。

このため、在留邦人の大部分はパリーにある東銀支店（The Bank of Tokyo, Ltd. 266Avenue de l'Opora, Paris（7 or））に口座を開設して、日本からパリに送金させ、必要に

応じてパリから当国銀行（Banque National d'Algerie）の最寄支店に送金して貰う方が良い。送金されると、当初、当国の為替銀行（Banque Extesieur d'Algerie）を経由（外貨は全てチエックされる。）して、指定した最寄の銀行から本人に通知される。送金方指示後現金受領まで、通常１カ月（電送の場合）を見込む必要がある。

なお、注意を要するのは、当国に東銀支店がないため、東銀トラベラーチエックは、アルジエ市の日本大使館指定銀行１店を除いては、全国各銀行とも交換不可能である。

11. 出入国管理

(イ) 税関検査

① 一般事情

当国は極度に外国製品の輸入を制限しているため、入国時の携帯検査は非常に厳重である。ボデータッチもあり得る。

② 持込禁止品

(ｲ) 条　件

旅行者は原則として全てのものを申告しなければならない。外貨は勿論、免税購入品も同様である。自動車、金製品等は特別申告を必要とする。

(ﾛ) 持込制限度

タバコ：　１７才以上２００本又は５０本の葉巻、４００ｇのタバコ。

宝石類：　金又はプラチナ２００ｇ、銀製品４００ｇまで、その他の宝石類は全て出国時に国外に持出されること。

酒　類：　1ℓまで。

出国時に再持出しを条件に下記のものが免税で持込む事ができる。

カメラ：　2台（アクセサリー共）フイルム8本。

ポータブルシネカメラ：　1台、フイルム10巻。

ポータブルラジオ：　1台。

ポータブルテープレコーダ：1台、テープ2本。

ポータブルプレーヤー：　1台。

双眼鏡：　1台。

ポータブルタイプライター：1台。

キャンピングテント：　1幕。

スキー：　2台。

テニスラケット：　2本。

その他若干の身廻品、洋服等。

なお、別送荷物等がある場合は、予め大使館と打合せしておき、（内容品名、到着予定日、個数等、詳細である程良い。）できるだけ簡易通関を取計らって貰うよう手配した方が安全である。

③　入国時の注意事項

特に、現金、（トラベラーズチェックを含む）は入国時に必ず申告（黄色い用紙）をしておくこと。滞在中、外貨の所得（申告より増額）が発見された場合、思わぬ不利益をこうむることがある。持ち込んだ現金は、交換の都度、交換銀行又はホテルで、交換した金額を外貨等申告書（黄色い用紙）に記載しておくことが、出国時に不必要なトラブルを避けることになる。

④ 持込禁止品

国際的に禁止されているもの以外に当国では、所謂〃みやげ品〃も殆どないので、比較的簡単。但し、入国時に無税で持込んだものは、自由に販売したり、無償で与えたりしてはならない。即ち、所定の輸入税（日本製品の場合は三倍関税があるので、特に注意を要する。）を支払わない限り、勝手に処分できないので、原則として持ち込んだ品は必ず国外に持出すことになるので、特に留意する必要がある。

(ロ) ビザの更新

外人登録は特に必要でないが、通常は所属先の長のサインの入った証明書を取得し、滞在地の県庁に出頭すれば、3カ月を限度にビザを更新してくれる。（写真2葉、費用15DA）

たゞし、トレムセン県の例では、専門家は Calte de Sejulo（滞在許可書）がないと、延長を認めてくれない。Calte de Sejulo を取得するには、医師の健康証明書3通、写真13枚、勤務地の長の証明書、に40DAの印紙が必要である。

12. 便宜供与の種類

① 住宅手当等の現金供与

なし。

② 出張旅費、公用車の提供、ガソリン代の支給の有無

出張旅費は専門家には支給されない。

公用車も9－(ニ)で述べたとおり、当国は車の購入が困難であるため、専用車の提供はほとんどない。勤務先の公用車を共同使用することになるので、専門家の必要な時いつでも使用できるとは限らない。このため、仕事に支障が出る場合が

しばしばあるが、当国人は仕方がないと云うことであきらめている。

ガソリン代は通常勤務地でチケットを発行するが、仕事の途中でガソリンが不足し、現金購入（専門家自身が支払わないと運転手等は金を持たない者が多い。）しても、これは支給されない。

③ そ の 他

住宅提供も当国の現状からみて、なかなか適当な家屋の提供を受けることは難しい。現在の専門家の給与では、当国において独立家屋を借りることは困難であるため、現地人と同居する場合のあることも覚悟する必要がある。

当国においては、専門家が支払った宿泊代、食事代、ホテルでの電話代等領収書の発行されるものは全て、受領しておかないとあとで大変迷惑する場合がある。（筆者は、出張中、車が故障しやむを得ず出張先で宿泊した時、運転手が、勤務先にウソの報告をして、宿泊代、タクシー代、食事代等２人分の請求を行ない、自分の懐に入れていた事実が１カ月程後に経理担当者から云われて、判明し、唖然とした不愉快な事件があった。）

現物供与はない。

(ロ) カウンターパート、通訳

カウンターパートになり得る現地人は一応教育も中等教育以上の者が当るため、他の仕事と兼任させる場合が多く、また、勤務先の都合によってしばしば交替させられるので、切かく仕事を教えても、元のモクアミとなることが多い。

通訳は一切付かないので、専門家が現地語を修得するか、

現地人に日本語を教えるかの２つしかない。

(ｲ) 免税特権

なし。

専門家が勤務する国家機関においても、機械等輸入した場合には税金を支払わなければならない。

13. 通信、運輸

(イ) 郵便事情

① 安全性、配達システム

当国はＩＴＵ加盟国ではない。従って、一応国際的な取り決めに準じて取扱われているものの、安全性は期待し難い。書留についても同様である。日本との交信は、必ずコピーをとり、万一に備えることに留意する。又場合によっては大使館の通信網に依頼することも検討に値しよう。

配達は個別配達。

外国郵便料金は重量制であるが、同一重量であっても、日により、窓口の人により異なる場合がしばしばあるので注意を要する。

② 電報、電話サービス

国内電報はほゞ到着するが、国際電信は、相手に到着しないことが多々ある。（局で間違った相手に送信し、傍受側はそのまま放置してしまう。）

電話は大都市および大都市間はダイヤル即時通話であるが、１回で相手に接がる例はほとんどない。３～４回でも接がらない例が多い。特にアルジェ市から地方都市には、ほとんど接がらない。地方からアルジェ市には、根気よくダイアルすれば接がる。

地方の呼出し電話となると局が出るのに１～２時間はかかる。なお、公衆電話はP. P. T.まで行かないとない。

日本への国際電話は３分間７５ＤＡ程度である。

③ 手紙、電報の日本、現地間の所要日数

手紙（Air Mail）　３～１０日

電報　１～　３日

④ 主要都市との連絡方法

郵便　１～２日、

電話　至急報でも１～３時間（夜間は係員がいないので、難しい。）

大きな組織にはテレックスがあるのでこれの利用を検討するのも一案であるが、地方都市にはテレックス局がない場合が多い。

(ロ) 運　送

① 陸送、海送業者の有無、料金

会社は漸時国有化されつゝあるので、サービスは期待できない。

抜き荷を注意する要がある。また、人件費が高く、運送費を除き梱包料だけで最低５００ドル（５m^3程度）を考えなければならない。

② 家財送付上の手続、宛名注意事項

日本から当地に送る際は、在アルジェリア日本大使館とした方が比較的安全で便利。

引越荷物は一回限り無税輸入を認められるが、分割送付すれば三倍関税に該当し、膨大な税金を課せられることになる。

14. 言　語

(イ) 公用語、第1外国語の普及度

公用語はアラビヤ語、（但し、カイロのいわゆる標準アラビヤ語は通じない場合がある。）

第1外国語はフランス語で準公用語として一般にもよく通ずる。但し地方都市では、フランス語を全然解さない人も多い。

英語は殆ど通じない。

(ロ) 現地語事前学習の必要性

事前に習得できればそれに越した事はない。しかし、日本で学ぶ事は大変な困難を伴うであろうから、むしろ、フランス語を学習した方が良い。アラブ語は、現地で習うことも一方法である。

(ハ) 語学学習の施設、受講時間

制度的な施設は全くない。当国人の75％が文盲と云われる位であり、政府としても、1980年までには文盲絶無を目標に成人教育を行なつているが、これはアラブ語であり、教師はエジプトから雇入れている。従つて、外国人が勉強するには、全くの個人ベースで教師を探すこととなる。

15. 気　候

大きく地中海沿岸の北部と中部のテルアトラス山脈までの高原地帯、南部サハラに分けられるが、地中海沿岸部は年間を通じて湿度も高く、冬期（雨期）は暖房が必要である。しかし、寒さはそれ程きびしくなく、（アルジェ市で1月の平均気温10℃内外）夏（乾期）も最高40℃位で比較的しのぎ易い。夏期7～8月には〃シロッコ〃と称する熱風がサハラから吹

いて来るが、この時は気温が連日５０℃にも達することがある。（年間２～３回、１回１０日前後）

筆者の居住するトレムセン市は、テル・アトラス山脈の北端中腹で海抜８００米程の所であるが、冬期は積雪（最高１m）があり、夏期には〃シロッコ〃が山脈にさえぎられて来ない。大陸性気候で昼夜の温度差は１０～２０℃程で、相当寒いと云える。特に風が強く、無風の日はほとんどない。気温も北部海岸より低い。

テルアトラス南部のサハラは、所謂大陸性気候で昼夜の温度差が激しく、夏期には平均５０～６０℃の日中気温となる。

服装は、地中海沿岸に居住する限り、東京で利用しているもので充分間に合う。

夜間、冬期の寒さは、気温よりも、風および、家屋構造による場合が多いので、服装等についても留意する要がある。

16. 治　安

(イ) 一般情勢

１９６２年に独立以来本年で１０周年を迎えた当国は、治安は安定していると云える。日本に対しては、驚異的な経済発展、柔道、カラ手などのスポーツ、また、最近当国に進出した企業の活動状況、或は戦時中の神風特攻隊（当国は軍人が多く、独立戦争以来、身命をかけて国を守る精神教育が行き届いているように感ずる。）等から比較的好感をもって迎えられている。

コソ泥、スリ等は都市部に特に多いので、注意する。

(ロ) 夜間外出上の注意

当国は、他の回教国と同様、婦人は白布で顔をかくして外

出する国柄でもあり、婦人の一人歩きは避けた方がよい。

専門家（男性）でも夜間一人歩きは特に注意し、現地人、知人などをさそって、２人以上で外出した方が安全である。（車の場合は１人で外出しても大丈夫。）

外出禁止令はない。

(ｲ) 緊急連絡

大使館へ電話、電報で連絡する。

集合場所は決定していない。

筆者は、大使館所在地より７００Km程離れているため、緊急の時は間に合わない場合も考えられるので、この点、OTCA、大使館等で何らかの対策を考える必要があろう。

17. そ の 他

(ｲ) 現地人気質

独立後わずか１０年の若い国であり、政治、経済上の不備など不安材料もあるが、一般的には大国フランスから自力で独立をかちとったというプライドはかなり高い。一方、長い間の植民地（１３０年間）の原住民であったため、生活の智恵とも云うべき〃ズルガシコサ〃が同居しているようにみられる。これも、都市生活者に多くみられる現象で、地方都市から農村に入れば、純朴な農、牧民の素直な人柄にふれることができる。

肌は、白人系、東洋人系、黒人系が混合しており、人種差別はない。日本人は当国人に肌色が似ているので特に好意を持たれている。

ビジネスに関しては全く誠意がない。責任の所在は判然とせず、約束は守られず、時間はルーズ、見えすいたウソを平

気で云う等々枚挙にいとまがない。このため、仕事を一番早く片づけるには、所属の最高責任者に直接談判することによつて、好都合に事が運ぶことになる。又、他の機関に交渉する場合でも、所属の長から他の機関の長に直接交渉させると難しい問題も可能となる国柄である。

また、アラブ人全体に通ずると思われるが、プライドを傷つけられた場合、生命をとして復しゅうするという気質がある。このため裁判沙汰になつても、裁判所はいわゆる〃敵討ち〃的罪人は罰を軽減させることもあると聞くので、特に注意する必要がある。

(ロ) 新聞、雑誌等

① 日本よりの購読方法

日本で海外購読者を対象としている専門業者（海外新聞普及（株））に依頼するのが便利であろうが、専門家個人では運賃負担が大きく、困難である。アルジエ市では、大使館、商社等に新聞が来ているので比較的楽である。

② 日本語雑誌等の販売店の有無

なし。（トレムセン市には英字新聞すらない。）

その他、当国は政府の完全な報道管制下にあり、例えばフランスの有名な週間紙〃パリマツチ〃なども輸入禁止となつている。又、筆者が乗り合せた飛行機で〃タイム〃誌を持つていた乗客が、税関で取り上げられ、引きさかれていたのを見ている。

(ハ) 風俗・習慣

① 特に禁じられている風俗・食習慣、チップ等

飲酒は宗教上では禁酒であるが、一般には飲酒する。

ただし、酒場は少なく、暴飲する者も少ない。バー、キャバレー等も少ない。

喫煙は子供でも喫う者がいる。現地タバコはタバノアール（黒葉）が多く日本人には合わない。

食事は、都市生活者はほゞフランス並み。

現地人は、〃クスクス〃料理を好む。クスクスは、原料は小麦粉で、粟によく似た小顆粒にし、これを油、バターと一緒にむして、鳥肉又は羊肉と野菜を煮たスープをかけて喰べるもので、時には、スープのかわりに砂糖を使うこともある。（日本では池袋に1軒だけクスクス料理店がある。〃池袋パルコ、7階料理店クスクス〃。）

茶は、緑茶に〃ハッカ〃の葉を浮べたものを好んで、常用する。コーヒーは多いが、紅茶は少なく、ホテルでも無い場合がある。当国人は特に砂糖を愛好する。

チップについては、料金に加えられている場合には、若干プラス。加えられていない場合は総額の5～10％程度を考慮すれば良い。

大きなホテル、レストランは国営であるが上記程度のチップは与えた方がよいであろう。

ラマダン（断食期間）

太陰歴の第九番目にあたる月の1カ月間は日の出から日没まで、水、煙草はもちろん、〃つば〃をのみこむ事もできない生活が続く。回教の戒律からきているもので、当国はアラブ化を推進する前提として、回教を政策的に擁護しているので、厳格に守られている。

この時期は官公庁等は開店休業に近く、長期間の休日の

様を呈する。

② 専門家としての体面

服装については、背広にネクタイと云う日本のオフィスの服装はかえつて現地人の反発を買うので、作業服でさしつかえない。但し、下着類については、現地人は非常に不潔であるので、常にきれいにしておく必要がある。（女中の口から私生活の全てが、他人に伝わるので注意すること。）

仕事に対しては、常に良、悪しをはつきり示すことが必要である。常に最高責任者に問題提起をしないこと、流言、飛言に迷わされることが、しばしばである。

風俗、習慣、衣食住等すべての面で日本と異なるので、当初はとまどいもあるが、できる限り原地人の生活に親しみを持つように心がける事が、仕事もやり易く、信頼もされる。

特に、私生活については、正しくしなければ、現地人と同一視されてしまうので注意すること。

(二) 理髪店、美容院、クリーニング店

理髪、美容院共に非衛生的で技術的にも決して上手とは云えない。

理髪	（散髪、洗顔）	8～12DA
	（散髪のみ）	4～ 7DA
美容	（パーマ）	60～70DA
	（セット）	30～35DA

クリーニング店は、Yシャツなど汚れが落ちる程度で、仕上げは全く駄目。（ノーアイロンの持参をすすめる。）洋服、婦人服など、ボタンを全部取つて出さないと、珍らしい婦人

服ボタンなどは故意に紛失することが多い。

(ホ) 買　物

当国は外国製品を極度に輸入制限していることもあり、店は商品が非常に少ない。又流通機構の悪さから、例えばトレムセン市のジュータン（繊維製品の産地）価格とアルジェ市の価格では倍の開きがある。

野菜、果物等国内で生産されるものは比較的安価に入手できる。

値引きについては、国産品の場合個人商店で相談にのってくれることもあるが、難しい。同一製品でも店によって値段に差があるので、数軒の店を比べることも一方法である。

(ヘ) 今後赴任される専門家に対するアドバイス

アルジェリアは、独立後１０年を経ただけの若い、社会主義を志向するアラブ国家である。

従来の技術、経済協力は、西欧色の強い地域が多かったと思われるが、当国に来てみてあらゆるところで困惑ととまどいを感ずることであろう。例えば、ある新規事業に着手する場合でも、計画（机上プラン）のみが先行し、実行面は遥か後方に置き去りにされることが応々にして起る。技術的に疑問を生じても、計画だけは完成しようと努力する。その意欲には感服するが、行政組織も、従事する人間も、計画遂行能力が不足している場合が多い。又、しばしば述べているように、必要資材にも不足しており、ネジ１本、スプリング１本に１０日も半月も探し廻っても入手できない場合が多い。

今後赴任される専門家の所属するであろうところの組織は全て国営、公団、公社等の政府直轄事業と変らぬ内容である

ことを予め、考慮しておく必要がある。

すなわち、㋐所謂、官僚的であること。

このことは、下級職員は、自分の命令系統以外による依頼には絶対に応じない。どんな小さなことでも、申請→許可→実施という形をとつているが、実行面については何時まで待つても結論が出ない場合が多い。

㋑　行政的手腕のある人が少ない。

１３０年間のフランスの統治は、モロッコ、チュニジヤと異なり、一切をフランス人が握つていたため、行政的な経験、能力のある者の訓練ができておらず、官僚的であることを倍加させているように考えられる。

㋒　パピエ（通達、命令、指示、証明書等の書類）の国であること。

朝令暮改は日常茶飯時であり、長と名のつく人はサインに追われ又、パピエを乱発している。又この書類がないと仕事は一寸も動けないことを理解しておくこと。

㋓　流通機構がスムーズに作動していない。

一般的に、社会主義国家の一つの欠陥とされている流通機構は、この国でも同様作動しない。消費物資、生活物資が店頭から姿を消す場合があるが、産地では豊富に溢れていると云う有様である。優先的に取り扱われるべき政府調達物資すら入手が遅れる。このため予定の作業が進まないなど通常のことである。その結果は工期の延長であり、技術者の滞在延期となる。

㋔　とにかく待つことに慣れること。

現地で明日（ドゥマン）と云われたらその件に関しては１週間はかかると思わなければならない。日本人はせつかちで、仕

事に追われていないと何だか遊んでいるような気分になるが、当国にはこの勤勉さは全くあてはまらず、無理に自分の考えを遂行しようとすると、精神衛生上甚だ好ましくない状態となるので、とにかく、〃待つ〃ことに慣れることである。

Ⅱ　同国に対する我国の技術協力実績

昭和47年3月31日現在

区分 / 形態	農水産	建設	鉱工業	運輸	通信	厚生	行政	その他	累計(人)	経費 (千円)	経費 (千米ドル)
研修員受入	4		2				1		7	4,568	13
専門家派遣	11	1	2	1					15	17,846	50

名称	調査内容	期間	団員数		
紙パルプ工業設立計画調査	オラン周辺の木材資源を利用した、パルプ及び製紙工業設立の可能性についての調査	42.2 ～ 42.3	5	6,149	17
工業開発基礎調査	工業産業諸計画を策定するため調査団を派遣し、経済開発等、産業全般についてその実態と、問題点の調査	47.2 ～ 47.3	7	5986	17

Ⅲ　大使館等連絡先

大　使　館

住　　所	Ambassade du Japon, 3 Rue du Docteur Lucien Raynaud, Alger, ALGERIE
電　　話	60-46-45 60-55-71
電　　略	TAISHI ALGER
Telex	C. 91911 A. TAISHI ALGER